薬学専攻博士課程カリキュラムツリー

	1年	2年	3年	4年

DP1 知識・理解

1-1「薬物治療学特論群」の科目では、個別化医療、薬物治療、化学療法、感染症治療、薬効・毒性評価に関する高度な臨床的知識を学び、その臨床的な意義と必要性を理解することで、臨床での課題解決能力・研究能力の基盤を作ることができる。
1-2「実践医療薬学特論群」の科目では、レギュラトリーサイエンス、健康予防栄養学、コミュニティファーマシー、医療保険制度、漢方処方に関する高度な知識を学び、その臨床的な意義と必要性を理解することで、臨床での課題解決能力・研究能力の基盤を作ることができる。
1-3「薬物治療学特論群」と「実践医療薬学特論群」の講義内容を統合的に関連づけることで、幅広い臨床の課題について多角的な視野から理解し活動することができる。

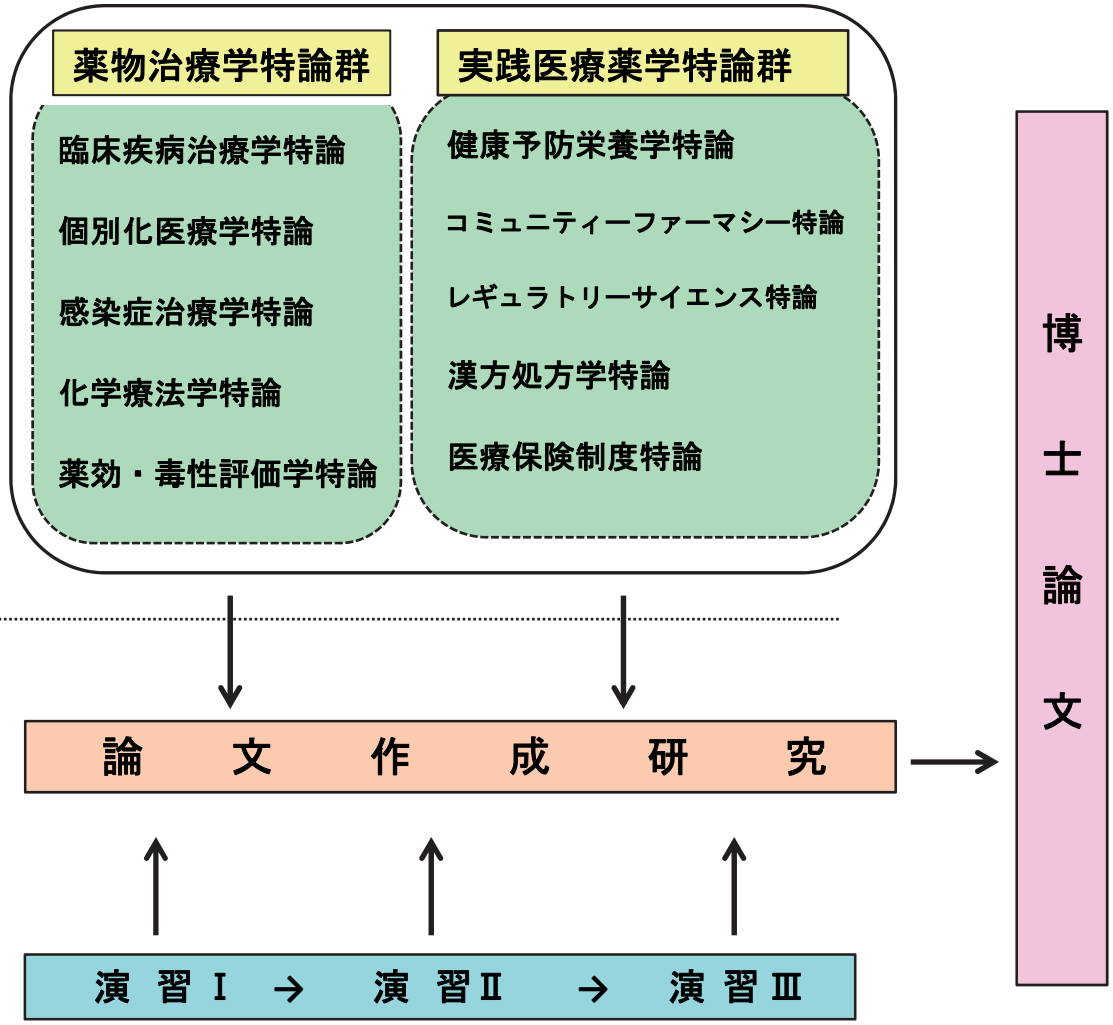
DP3 思考・判断

3-1「講義」を通じて幅広い臨床分野において、新たな問題・課題を見出すことができる。
3-2「演習」を通じて幅広い臨床分野において、状況に応じた課題の解決への具体的方策を立案できる。

DP2 技能・表現

2-1「講義」を通して、学問的視野が広がり、課題解決能力や研究実践の技能を向上させる素地ができている。
2-2「演習」を通じて、臨床現場を想定した課題解決能力や研究実践のための技能を有している。
2-3「論文作成研究」は、「講義」・「演習」と組み合わせることで、相乗的な研究能力の向上を図ることができる。

DP3 思考・判断

DP4 態度・志向性

4-1 自ら医療現場等で想定される課題を見出し、積極的に問題解決を図る態度が涵養されている。
4-2グローバルな視野に立ち、医療現場等で指導的役割を果たす自立した教育研究者としての素地ができている。